

阿弥陀堂

メッセージが刻まれた石

この阿弥陀堂には、浄土宗の本尊の阿彌陀佛と一緒に、病気を治す薬師如来と弘法大師の魂を祀った像の2体の神様が安置されています。この、弘法大師とは、真言宗の開祖、空海（774年～835年）の諡号です。仏像はすべて、この小さな厨子の中に祀られており、見ることはできません。

この厨子付近にある石は一見の価値があります。この阿弥陀堂の真正面には一群の石碑が設置されていますが、その右側にある黄色い染料が散らされた石碑には、中国の道教に由来する民間信仰の庚申という2文字が刻まれています。信者は60日ごとにここに集まり、眠りに落ちると悪いことが起こると信じて徹夜（通常は大騒ぎをして）しました。

小川沿いの道路の向こう側にある背がやや高い3本の四角い石柱にご注目ください。これらの石柱のすべてに、繰り返し唱えられる阿彌陀佛の慈悲に帰依するということを意味する短いお経、「南無阿弥陀仏」の6文字が刻まれています。これら3本の柱の中で最も古いものは1692年に遡ります。

また、ここには小さな馬頭観音像も2体あります。この観音像をよく見ると、その冠に馬の頭があしらわれていることがわかります。馬頭観音は動物の守護仏であり、旅人は自分の馬が死ぬとこれらの石仏を建立することがありました。

最も奥の部分にはずんぐりとして先のとがった石像が1体設置されています。これは、巡礼の旅を終えた巡礼者がその記念に建立した石像です。